

研修事業実績

● 社会基盤整備

開発途上国では都市開発、道路、上下水道等の社会基盤の整備が遅れているために、国の経済発展だけではなく、これらの施設、そして社会基盤のシステムが持続的に機能するために必要な人づくり、制度づくりも支援しています。JICA北海道では、国土交通省北海道開発局、北海道、札幌市等の地方自治体や大学等のノウハウを活用して、途上国の多くのニーズに対応した研修を行っています。また、寒冷地に位置する北海道の特徴を生かした研修なども行っています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	地熱掘削運営管理	課題別	5	ジブチ(2)、エチオピア、ケニア、タンザニア	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.11.29-23.12.15
2	灌漑施設の維持・運営管理	課題別	9	ベトナム、ネパール、エジプト、ガーナ、ウガンダ、ジンバブエ、モザンビーク、ルワンダ、アゼルバイジャン	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.6.14-23.7.26

● 環境

開発途上国では、人々が貧困のために自然環境を破壊し、そのことがますます貧困を深刻化していくという環境劣化と貧困の悪循環が起きています。また、人間の活動全般から発生する環境への負荷(悪影響)を減らし、持続可能な消費と生産が可能となる社会の仕組みづくりを行うことが重要な課題となっています。JICAは開発途上国の自然環境保全に取り組むとともに、水質汚職対策、廃棄物処理等の分野で支援を行っています。JICA北海道では、道内の森林管理のノウハウや地方自治体の都市環境対策の経験を活かした研修を積極的に行っています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	国立公園(ラグーン)における生態系に基づく管理(アルバニア)	国別	10	アルバニア	内包化	23.5.23-23.6.3
2	持続的森林管理及び生物多様性保全(担当クラス)(インド)	国別	14	インド	アジア航測株式会社	23.8.16-23.9.7
3	地域住民の参加による持続的な森林管理	課題別	10	フィリピン、東ティモール、ベトナム、ネパール、ソロモン、マラウイ、ウガンダ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	アジア航測株式会社	23.9.13-23.11.22
4	湿地生態系における自然を活用した社会課題の解決(ネイチャーポジティブな社会の実現に向けて)	課題別	8	コスタリカ(2)、ドミニカ共和国、グアテマラ、ニカラグア(2)、パナマ、ペルー	釧路国際ウェットランドセンター	23.10.11-23.11.22
5	自然環境行政官向けのエコツーリズム	課題別	7	ベトナム、パラオ、ボツワナ、ウガンダ、ガボン、コンゴ民主共和国、ジョージア	釧路国際ウェットランドセンター	23.6.28-23.8.3
6	気候変動に対する順応的流域管理「災害リスク削減と生態系保全」	課題別	6	フィジー、セントルシア、マラウイ、コソボ、モルドバ、バングラデシュ	アークコーポレーション株式会社	23.8.23-23.10.18
7	地域資源を活用した観光振興・観光地マネジメント	青年	12	タイ	ひがし北海道自然美への道DMO	23.10.4-23.10.21

● 保健医療

基本的な保健医療サービスが提供されれば簡単に予防・治療できる程度の病気やお産などで、今も開発途上国を中心に多くの尊い命が失われています。JICAは「感染症対策」「母子保健」「保健システム」などの分野において、開発途上国の保健・医療の充実に取り組んでいます。JICA北海道では、道内の僻地における公衆衛生の改善の経験等を活かして、母子保健や保健行政人材の育成等を行っています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	母子栄養改善	課題別	11	インドネシア、ラオス、パキスタン、エクアドル、ガーナ、マラウイ、アンゴラ、マダガスカル、ルワンダ、シエラレオネ(2)	公益財団法人ジョイセフ	23.11.1-23.11.2(遠隔) 23.11.15-23.12.6(来日) 24.1.10-24.1.11(遠隔) 24.2.22・24.2.26(遠隔)

● 地域振興・地域開発行政

急激に都市化が進む都市部と、開発から遅れた地方部の経済格差が開発途上国では拡大しています。こうした格差を是正するとともに、それぞれ固有の問題を解決するためにJICA北海道では、北海道で培われた地域総合開発の経験や地域リソースを活用した地域振興を目的として、開発途上国の行政官等を対象に、課題解決に向けた人材育成を支援しています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	食品の品質・衛生管理強化を通じた地域産業開発(マレーシア)	国別	10	マレーシア	帯広商工会議所	24.1.9-24.1.12(遠隔) 24.1.15-24.1.26(来日)
2	日本の経験を通じたビジネス振興(カザフスタン)	国別	7	カザフスタン	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.6.10-23.7.2

● 農林水産業等

農林水産業は、自国で必要とされる食糧を安定的かつ安全に供給する役割・期待を担っています。とりわけ、開発途上国においては主要産業として重要です。JICA北海道では、北海道における農村のリソースを活用した地域振興や持続可能な開発につながる資源の有効利用に関する北海道の経験・知見を活かして、人材育成を支援しています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	持続的農業生産のための土壌診断と土壌改良技術	課題別	7	バプアニューギニア、ジョージア、フィリピン、スリランカ、タンザニア、ザンビア	一般社団法人The Earth Café	23.5.17-23.7.25
2	畜産物(乳・肉・卵)の安全・衛生・品質管理技術強化	課題別	6	タイ、バプアニューギニア、キューバ、ボリビア、ナイジェリア、コンゴ	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	24.2.20-24.4.26
3	アジア地域 市場志向型農業振興(行政官)(A)	課題別	21	バングラディッシュ、パキスタン、フィリピン、スリランカ、ブータン、ネパール、	十勝インターナショナル協会	23.8.27-23.9.15
4	CIS諸国、モンゴル向けアグリビジネス経営管理	課題別	8	アルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン	インサイトマネジメント株式会社	24.1.17-24.2.1
5	アジア地域 市場志向型農業振興(行政官)(B)	課題別	10	モンゴル、カンボジア、インドネシア、タジキスタン、ベトナム	十勝インターナショナル協会	23.8.7-23.8.25 (遠隔)
6	カリブ9カ国／農業・農村開発(農業の6次産業化)	青年	10	アンティグア・バーブーダ、バルバドス、バリーズ、グレナダ、ガイアナ、セントクリストファー・ネービス、セントルシア(2)、セントビンセント(2)	十勝インターナショナル協会	23.5.23-23.6.9
7	農業・農村DX／スマートフードチェーン共創に向けた産官学人材育成(B)	課題別	12	アルゼンチン、ボリビア、コスタリカ、キューバ、エルサルバドル(2)、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.6.13-23.6.15(遠隔) 23.7.3-23.8.2(来日)
8	スリランカ北部州酪農開発プロジェクト国別研修(スリランカ)	国別	11	スリランカ	内包化	23.8.17-23.8.31
9	コミュニティにおける農協開発(ジョージア)	国別	11	ジョージア	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.8.27-23.9.9
10	SATREPS 高栄養価作物キヌアのレジリエンス強化生産技術の開発と普及(ボリビア)	国別	1	ボリビア	JIRCAS	23.9.5-23.10.12
11	アジア地域 フードバリューチェーン構築による地域アグリビジネス振興	課題別	10	マレーシア、カンボジア、ベトナム(2)、インド(2)、ネパール(2)、フィリピン(2)	十勝インターナショナル協会	23.10.31-23.12.1
12	ブータン国別バリューチェーン(行政官)(ブータン)	国別	9	ブータン	十勝インターナショナル協会	24.1.10-24.1.31
13	人獣共通感染症および食料安全保障を脅かす家畜感染症の対策に資する獣医サービスの強化(ウズベキスタン)	国別	9	ウズベキスタン	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	24.1.22-24.2.6
14	平和構築に資する包摂性を確保した農業農村開発事業強化プロジェクト(コロンビア)	国別	9	コロンビア	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.9.25-23.10.12
15	人獣共通感染症コントロールのための検査技術と研究能力強化	課題別	10	ブータン、ボツワナ、コンゴ民、リベリア、ナイジェリア、パレスチナ、パラグアイ、タイ、ウガンダ、ザンビア	帯広畜産大学	23.11.6-23.12.4(遠隔) 24.1.31-24.4.26(来日)
16	人獣共通感染症対策(寄生虫を含む)研究者育成(エチオピア)	国別	1	エチオピア	帯広畜産大学	23.11.6-23.12.4(遠隔) 24.1.31-24.4.26(来日)

17	小規模農家の生計向上のための持続的な畜産バリューチェーンの構築	課題別	10	ウガンダ、南スーダン、ナミビア、北マケドニア共和国、モンゴル、キルギス、トルクメニスタン、ベリーズ、ネパール(2)	帯広畜産大学	23.5.30-23.6.7(遠隔) 23.6.29-23.8.3(来日)
18	馬鈴薯生産技術研修(ケニア)	国別	1	ケニア	帯広畜産大学	23.6.29-23.7.12
19	栄養改善に資する乳生産のための飼養管理技術(生乳の質と量の改善に向けて)	課題別	9	マダガスカル、ブータン、パキスタン、スリランカ(2)、フィジー(2)、ネパール(2)	十勝インターナショナル協会	23.9.20-23.11.22
20	アラブ圏市場志向型農業振興(行政官)	課題別	7	パレスチナ(5)、エジプト(2)	十勝インターナショナル協会	24.2.14-24.3.1(来日) 24.3.3-24.3.7(エジプト)
21	北部ナミビア小規模農家生計向上プロジェクト(ナミビア)	国別	10	ナミビア	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.10.12-23.11.1
22	戦略的マネジメント・マーケティングによる持続的地場産業振興(A)	課題別	10	ケニア、コートジボワール、スリランカ、トルコ、フィリピン、ベトナム、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マレーシア、キューバ(2)	インサイトマネジメント	23.5.8-23.6.8
23	戦略的マネジメント・マーケティングによる持続的地場産業振興(B)	課題別	9	アゼルバイジャン、カンボジア、コートジボワール、コソボ、ペルー、ミャンマー、フィリピン(2)、ベトナム	インサイトマネジメント	23.9.11-23.10.12
24	農業・農村開発	青年	8	ラオス	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23.11.23-23.12.7

● 教育

JICAは、世界中のすべての人々が教育を受けられるという目標に向かって、開発途上国における基礎教育の普及に取り組んでいます。JICA北海道でも、北海道の教育関係者との意見交換や実際の学校現場への訪問等、北海道の教育行政や学校教育の知恵と経験を活かした研修を実施しています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	小学校理科教育の質的向上～「教えと学び」の現場教育～	課題別	11	フィリピン、カンボジア、ラオス、東ティモール、バングラデシュ、パキスタン、パプアニューギニア、ボツワナ、レソト、ザンビア、アンゴラ	十勝インターナショナル協会	23,10,19-23,12,6

● 青年研修

開発途上国の青年が、それぞれの国で必要とされている分野の基礎的な研修を通じ、将来の国づくりを担う人材となってくれることを目的とする事業で、地方自治体、地域のNGO、その他国際協力関連団体との連携で実施されています。地域の市民が、国際協力に参加、相互理解を深める重要な機会にもなっています。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	研修期間
1	カリブ9カ国／農業・農村開発(農業の6次産業化)	青年	10	アンティグア・バーブーダ、バルバドス、ベリーズ、グレナダ、ガイアナ、セントクリストファー・ネービス、セントルシア(2)、セントビンセント(2)	十勝インターナショナル協会	23,5,23-23,6,9
2	タイ/地域資源を活用した観光振興・観光地マネジメント	青年	12	タイ	ひがし北海道自然美への道DMO	23,10,4-23,10,21
3	ラオス/農業・農村開発コース	青年	8	ラオス	一般社団法人とかち地域活性化支援機構	23,11,23-23,12,7

● 長期研修

開発途上国の発展には高度な専門知識を持った人材の育成が各分野で必要とされています。特に産業を発展させる工学、地球規模の課題である環境管理等の高度人材の育成は、社会、経済、環境のバランスを取りつつ発展する持続可能な開発目標の達成には不可欠です。長期研修は開発途上国の高度人材が本邦の大学での学位取得を支援することで、対象国の人材育成を行うプログラムです。また、プログラムを通じ、日本の大学、産業界と途上国の高度人材との連携を促進します。

※研修員の来日時期が個別で異なる長期研修については、受入期間の記載を省略。

No	コース名	形態	人数	参加国	研修関係機関	受入期間
1	(連携方式)道路アセットマネジメント技術の中核人材育成(2021～2023年度)・2022年度・北見工業大学工学研究科・修士	長期	4	エチオピア、ケニア、ネパール、モンゴル	北見工業大学	
2	(連携方式)ABE第10バッチ	長期	1	コートジボワール	北見工業大学	
3	(連携方式)ABE2020・第7バッチ・帯広畜産大学畜産学研究科・修士	長期	3	ガーナ、ケニア、モザンビーク	帯広畜産大学	20.10.1-23.9.30 (遠隔+来日)
3	(連携方式)SDGsグローバルリーダー・コース2020(アフリカ)・帯広畜産大学畜産学研究科・博士	長期	2	ジンバブエ、マラウイ	帯広畜産大学	20.10.1-24.3.31 (遠隔+来日)
4	(連携方式)ABEイニシアティブ(2021～2023年度)・2021年度・第8バッチ・帯広畜産大学畜産学研究科(修士課程)	長期	1	モザンビーク	帯広畜産大学	21.10.01-24.3.21 (遠隔+来日)
5	人材育成奨学計画・帯広畜産大学畜産学研究科・修士	長期	1	ミャンマー	帯広畜産大学	22.4.1-24.3.31
6	(連携方式)ABEイニシアティブ(2021～2023年度)・2022年度・第9バッチ・帯広畜産大学畜産学研究科・修士	長期	3	ケニア、モザンビーク、ルワンダ	帯広畜産大学	22.10.1-25.9.30
7	(連携方式)SDGsグローバルリーダー(2021～2023年度)(アフリカ)・2022年度・帯広畜産大学畜産学研究科・博士	長期	2	ケニア、マラウイ	帯広畜産大学	22.10.1-26.3.31
8	(連携方式)ABEイニシアティブ(2021～2023年度)・2023年度・第10バッチ・帯広畜産大学畜産学研究科・修士	長期	2	ガーナ、ナイジェリア	帯広畜産大学	
9	(連携方式)SDGsグローバルリーダー(2021～2023年度)(アフリカ)・2023年度・帯広畜産大学畜産学研究科・修士	長期	1	南スーダン	帯広畜産大学	23.10.1-25.9.30
10	(連携方式)SDGsグローバルリーダー(2021～2023年度)(アフリカ)・2022年度・北見工業大学工学研究科・博士	長期	1	ニジェール	北見工業大学	22.10.1-26.3.31
11	(連携方式)道路アセットマネジメント技術の中核人材育成(2021～2023年度)・2021年度・北見工業大学工学研究科・修士	長期	2	インドネシア、モンゴル	北見工業大学	22.4.1-24.3.31
12	(連携方式)道路アセットマネジメント技術の中核人材育成(2021～2023年度)・2021年度・北見工業大学工学研究科・博士	長期	1	エチオピア	北見工業大学	22.4.1-25.3.1
13	(連携方式)ミャンマー農業セクター中核人材育成(フェーズ2)2020・帯広畜産大学畜産学研究科・修士	長期	2	ミャンマー	帯広畜産大学	21.10.1-23.3.31
14	(連携方式)食糧安全保障のための農学ネットワーク(Agri-Net)2020・帯広畜産大学畜産学研究科・博士	長期	2	パラグアイ、ラオス	帯広畜産大学	20.10.01 - 24.09.30 (遠隔+来日)
15	(連携方式)食糧安全保障のための農学ネットワーク(Agri-Net)2020・帯広畜産大学畜産学研究科・修士(2021春)	長期	1	インドネシア	帯広畜産大学	21.04.01 - 23.09.30 (遠隔+来日)

16	(連携方式)食料安全保障のための 農学ネットワーク(Agri-Net)(2021～ 2023年度)・2021年度・帯広畜産大 学(博士課程)	長期	1	ミャンマー	帯広畜産大学	21.10.01 - 24.09.30 (遠隔＋来日)
17	(連携方式)食料安全保障のための 農学ネットワーク(Agri-Net)(2021～ 2023年度)・2021年度・帯広畜産大 学畜産学研究科(修士課程)	長期	2	パラグアイ、南アフリカ共和国	帯広畜産大学	21.10.01 - 24.03.31 (遠隔＋来日)
18	(連携方式)食糧安全保障のための 農学ネットワーク(Agri-Net)(2021～ 2023年度)・2022年度・帯広畜産大 学(博士課程)	長期	2	キューバ、ルワンダ	帯広畜産大学	22.09.09 - 26.03.31
19	(連携方式)食糧安全保障のための 農学ネットワーク(Agri-Net)(2021～ 2023年度)・2022年度・帯広畜産大 学(修士課程)	長期	2	ラオス、パラグアイ	帯広畜産大学	22.09.14 - 25.03.31
20	(連携方式)食料安全保障のための 農学ネットワーク(Agri-Net)(2021～ 2023年度)・2023年度・帯広畜産大 学畜産学研究科・修士	長期	1	ナミビア	帯広畜産大学	23.09.19 - 26.03.31
21	(連携方式)食料安全保障のための 農学ネットワーク(Agri-Net)(2021～ 2023年度)・2023年度・帯広畜産大 学畜産学研究科・博士	長期	3	インドネシア、東ティモール、ザンビア	帯広畜産大学	23.09.19 - 28.03.31